

4.3 競技課題の公表(競技職種実施要領)

第 64 回 技能五輪全国大会「貴金属装身具」職種

【モジュール 1 フリーデザイン図面および A: フリーデザインベース部の製作】

- 1.1 競技前日にフリーデザイン部のテーマを提示するので、必ず与えられた条件および参考図案をもとにイメージを展開し、規定に基づいたデザインを考案すること。また、下記の要件を考慮して全体形状を構想し、支給された用紙にフリーハンドで作図したうえで実作すること。ただし、石枠を描く場合に限り、定規および各種形状の小型テンプレートの使用を認める。なお、テーマおよび参考図案の趣旨に著しく沿わないデザインについては、フリーデザイン箇所を採点対象外とする。
- 1.2 構成要素として、肉だし(打ち出し)、切り出し、曲げ加工、ひねり等の技法を用いたモチーフを 3 パーツ以上製作すること。なお、モチーフ 1 パーツについては石枠 1 個に置き換えることができる。板厚はデザインに応じて任意の厚みとしてよい。また、フリーデザイン部は、全モジュールの製作後に残った支給材を有効活用し、創意工夫を凝らして製作すること。
- 1.3 石枠は 2 個以上製作し、作品に組み込むこと。ただし、ふくりん石枠は不可とする。
※モチーフと石枠を合わせた構成要素は、合計 5 パーツ以上とする。
- 1.4 石枠の構造は、板地金による 1 段腰またはスリットを入れた 2 段腰とすること。
- 1.5 爪は、支給された線材(Φ1.0mm)を加工して使用できる。ただし、角のある石枠の角部分については、支給された板材を加工し、袋爪とすること。
- 1.6 フリーデザインの高さは、爪を除いて 7mm 以内とする。
- 1.7 各パーツは、完成時にベース部または本体へ確実に接続されるよう、2 か所以上の接点を設けてロウ付けすること。柱等を用いる場合は、十分な強度を確保すること。特に各パーツの先端部は、引っかかりが生じないように十分に配慮すること。
- 1.8 デザイン画には陰影や着色を施す必要はないが、形状の輪郭が容易に判別できるよう明瞭に描くこと。形状線が不鮮明なもの(線の重複や濃淡のばらつきなど)は減点の対象とする。
- 1.9 フリーデザインは、必ずしもベース部内に収める必要はなく、モジュール上に接点を設けたデザインに展開させてもよい。
- 1.10 A: フリーデザインベース部の製作には、支給された板材(t1.2mm)を使用し、課題図に従い製作すること。

【モジュール 2 B: ステム・ペアシェイプ枠・ラウンド枠部の製作】

- 2.1 支給された板材(t1.2mm)を使用して、課題図に従いステム部を製作する。上面は平甲丸形状とする。(肉だしは行わない)
- 2.2 裏板は、支給された角材(□0.9mm)を使用し、課題図に従って製作する。
- 2.3 柱は、支給された角材(□0.9mm)を使用し、課題図に従って 5 か所にロウ付けする。
- 2.4 ステムの透かし部の高さは 0.9mm とする。
- 2.5 支給された、板材(t1.0mm)と線材(Φ1.0mm)を使用して、ペアシェイプ枠(透かしあり・絞りなし)と爪部を課題図に従い製作する。
- 2.6 支給された、板材(t1.0mm)と線材(Φ1.0mm)を使用して、ラウンド枠(絞りなし)2 個と爪部(Φ0.8mm)を課題図に従い製作する。

2.7 ステム部・ペアシェイプ枠部・ラウンド枠部を組み立てロウ付けすること。

【モジュール 3 C: カールリーフ部 D: リーフ部の製作】

- 3.1 支給された板材 (t1.0mm) を使用して、C: カールリーフ部を製作する。肉だしを行って立体感を出し、C: カールリーフ部の肉厚を t0.9mm に均一に仕上げること。
- 3.2 製作したカールリーフ部 2 パーツを、ロウ付けする。
- 3.3 支給された板材 (t1.0mm) を使用してリーフ部を製作する。肉だしを行い立体感を出し、課題図に従い、透かし部とメレ穴と裏取りを施す。
- 3.4 裏板は、支給された角材 (□0.9mm) を使用して課題図に従い製作する。
- 3.5 柱は、支給された角材 (□0.9mm) を使用して課題図に従い 3 箇所にもロウ付けする。

【モジュール 4 E: 変形ひし形枠部の製作】

- 4.1 支給された板材 (t1.0mm) を使用して変形ひし形枠部を課題図に従い製作する。
- 4.2 支給された線材 (Φ1.0mm) を使用し、爪部 4 本 (Φ1.0mm) と丸カンを製作する。
- 4.3 石枠・爪・丸カンを組み立てロウ付けすること。

※モジュール 4 の提出後、選手への再配布までに約 30 分程度を要します。

【フリーデザイン部の製作、全モジュールの組み立ておよび仕上げ】

- 5.1 モジュール 1 のフリーデザインの製作は、全モジュール組み立ての時間内で作業するものとする。
- 5.2 モジュール 1 で各自が描いたフリーデザイン画を基に、忠実に地金で製作すること。
- 5.3 要件は、仕様書 1.2～1.9 に準ずる。
- 5.4 全モジュール組み立てでは、モジュール 1～4 で製作した各モジュールを、競技課題図 (公表図 1) に基づく形状および許容差以内の寸法となるように組み上げ、作品として完成させること。
- 5.5 なお、モジュール 1～4 でそれぞれの規定時間以内にモジュールが完成していない場合は、全モジュール組み立ての作業時間内に残りの作業を行うこと。
- 5.6 モジュール 2 のステム下部に付ける丸カンは、モジュール 4 E: 変形ひし形枠の丸カンと同寸法とし、全モジュール組み立て時にモジュール 2 のステム部へロウ付けすること。
- 5.7 ステム部との接点部の丸カンは、必要に応じて削り合わせ、本体と変形ひし形枠の間隔が広くなり過ぎないように注意すること。
- 5.8 課題完成の時は、変形ひし形枠が可動するように組み込み、丸カンの口を閉じロウ付けすること。
- 5.9 仕上げ作業では、「やすり目の跡」や作業中にできた「きず」をきれいに取り除くこと。その後、#1200 のペーパーで仕上げる。ペーパー作業では掛ける向きにも配慮し、ムラなく丁寧に行うこと。最後に、会場で準備した研磨粉を丁寧に掛け、作品表面 (背面部を含む) を整えること。
- 5.10 作品表面を完全に整えたのち (炭研ぎは行わない)、火肌仕上げを行うこと。
(黒変している酸化被膜や、色あげ中にできる色むらなどが残らないように注意すること)
- 5.11 作品が仕上がった者は、直ちに課題作品とデザイン画 (モジュール 1 で描いたもの) を一緒に「受付」の補佐員へ提出し、指示に従うこと。

※「Au750」または「K18」と数字の刻印は、運営側で用意するので、指定された位置に打刻する。

刻印位置は、競技前日に公表する。

刻印は「Au750」または「K18」に続けて、自身のゼッケン番号を打刻する。

ゼッケン番号は2桁表記とし、1桁の場合は先頭に「0」を付ける。

例:

ゼッケン番号が1の選手 → 「Au750 01」

ゼッケン番号が10の選手 → 「Au750 10」